

工学部建築学科 50 周年記念事業

●記念事業のスタート

平成 24 年 4 月に建築学科栗田哲学科主任より築理会に対し、「来年 4 月に工学部建築学科が設立されてから 50 周年を迎えるにあたって、一緒に記念事業を開催したいので協力してほしい」との要請があり、5 月の築理会総会で審議し、東京理科大学工学部建築学科 1・2 部と共催で工学部建築学科 50 周年記念事業を行うこととなりました。

組織として企画実行委員会を立ち上げ、委員長に栗田哲学科主任が就任、その下に記念誌部会、事業部会、祝賀会部会の 3 部会を構成しました。

平成 24 年 8 月 22 日の第 1 回企画実行委員会から始まって、平成 25 年 5 月 8 日の最後となりました会議で計 9 回の会議を開催、途中から総務部会も新設、そして各部会が個別に打ち合わせを重ねながら平成 25 年 5 月 18 日に工学部建築学科 50 周年記念事業を開催し、280 名程の参加者を集めました。

東京理科大学の中根理事長、藤島学長をはじめ多くの方々から評価をいただきましたことは、大変うれしく思います。参加者をはじめ、関係者の方々には深く感謝を申し上げます。

●イベントの計画そして実施

事業部会では、部会長に建築学科 2 部の河野守学部長が就任、建築学科 1 部の伊藤拓海准教授と築理会の福田義克常任幹事が補佐で就任し、企画実行委員会、他部会の皆様のご助言を仰ぎながら事業部会としての業務内容を検討し、実行致しました。

1. キャンパスツアー

① 施設概要説明会

葛飾キャンパスの建設に関係した東京理科大学管財部塚田幹夫担当課長からは葛飾キャンパスのコンセプトのお話、又、株式会社竹中工務店栗飯原功一作業所長より施工上の苦労話をいただきました。

② 施設見学会

参加者が多く、4 班に分けて見学会を行いました。

そして、管財部と施工会社の方々から建物に関する説明をしていただきました。

2. 記念講演会

講演では昭和 54 年工学部建築学科を卒業し、株式会社安井建築設計事務所の代表取締役社長をされております佐野吉彦様に「建築の価値を伝えた人達の軌跡に学ぶ」と題してお話をいただきました。

そして、50 周年記念事業開催日当日は伊藤裕久教授、佐々木文夫教授、稲坂晃義助教、焦彰訓助教、文翔助教、呉鴻逸助教、焦瑜助教の皆様や各研究室の学生達の協力をいただき、200 名を超えたキャンパスツアー、記念講演会参加者への対応を致しました。
(福田 義克 = 1 部 1968 年卒)

● 50 周年記念誌発行

建築学科では以前に 40 周年誌を発行していましたが、今回、その内容を基にして、学科の 50 年間の歴史をできるだけ正確かつ詳細に記録に残すことを目標に編集されました。年誌の中の「工学部第一部建築学科の歴史」は真鍋先生がまとめられました。ここには 1962 年（年度）から 2012



年まで1年ごとにその年の学科での出来事が記載されています。その中の一こま一こまは卒業生にとっても思い出の一こまでしょう。又、寄稿には退任されている先生方からの一文、現役の先生・研究室から、卒業生28名の皆さま方からも寄稿を寄せてもらいました。それに「築理会の歩み」も載っています。なお、今回の記念誌の編集に際しては編集委員長・真鍋恒博先生（嘱託教授）の多大な尽力によるものです。

この記念誌は、築理会会員にも（終身会員及び本年度会費納入会員）に配布されるよう準備を進めています。ただし、築理会分が無くなれば配布終了させていただきますので、ご了承ください。

（大岩 昭之＝I部 1968年卒）

● 50周年記念事業余談

キャンパスアートと中西繁画伯

工学部建築学科及び築理会の共催により開催した50周年記念事業の舞台となった葛飾キャンパス。キャンパスツアーに参加した会員の皆さんは真新しい学び舎を彩るキャンパスアートにお気づきだったでしょうか。武田早雲書「東京理科大学」の碑、青木繁「わだつみの いろこの宮」（陶板画）、上別府志郎、絹谷幸太の石彫、オーギュスト・ロダンの「考える人」などです。是非、葛飾キャンパスに足を延ばす機会を作りミニ・キャンパスツアーを楽しまれては如何でしょうか。その際、新キャンパス図書館のレセプションラウンジに飾られた大作、「ストックホルム夕景」を是非とも御鑑賞下さい。工学部建築学科1969卒業の中西繁氏（中西繁アトリエ代表、洋画家）の制作で葛飾キャンパスのオープンに花を添えています。葛飾キャンパスを訪れた際は是非とも図書館に足を運び築理会会員「中西繁画伯」の力作をご覧ください。

中西繁氏に関して、会員各位にご報告すること



があります。中西氏は大作「ストックホルム夕景」制作で母校に協力しただけではなく、その謝礼の一部を東京理科大学並びに我が築理会に寄付されました。中西氏に改めて御礼を申し上げますとともに過分のご寄付については会運営の目的に沿った用途を考え有効に活用させて頂きたいと考えております。今後、中西繁画伯の画壇における益々のご活躍を祈念するとともに築理会の活動に対する御支援・御協力をお願い致します。

（林 孝夫＝I部 1969年卒）

● 記念事業収支報告

建築学科50周年記念事業の実施に伴う会計収支は下表のとおり。

収入は4,796,748円、主な項目別収入は東京理科大学校費（約160万円）、記念誌広告収入

（約100万円）工学部第一部学部長及び第二学部長からの補助（各50万円）、祝賀会会費（約110万円）となっている。

一方、支出は4,831,613円、主な項目別支出は50周年記念誌出版（約300万円）、祝賀会経費（約95万円）、記念植樹25万円、雑費約30万円となっている。

収支の結果、残高は-34,865円となっているが、利用したコピー機のレンタル使用料の確定した時点で校費から支出され残高0となる予定である。

建築学科50周年記念事業収支

2013.10.31 現在

区分	項目	金額(円)	備考
収入の部	建築学科校費	1,565,248	※ ¹
	祝賀会会費	1,127,500	
	記念誌広告収入	1,068,000	
	工学部第一部学部長補助	500,000	
	工学部第二学部長補助	500,000	
	祝賀会御祝儀	30,000	
	記念誌販売	6,000	
	計	4,796,748	
	支出の部	記念誌編集・印刷代	3,028,410
祝賀会費用（飲食費）		953,750	
会場使用料		181,350	
通信連絡費		69,360	
謝金		66,000	
雑費		282,743	※ ¹
記念植樹代		250,000	※ ²
計		4,831,613	
残高		-34,865	※ ¹

※¹ レンタルコピー機の精算確定後、校費（追加収入）から充当の予定

※² 記念植樹完了後に精算の予定

『同窓会の輪② 清水建設』…清水理窓会

清水建設株式会社 設計・プロポーザル統括 設計本部
 医薬・食品施設設計部 グループ長
 関口 彰 (1部 1981年卒)

母校の創立記念125年、また工学部建築学科の設立50年記念を迎えることが出来ましたことは卒業生として大変嬉しく、また誇りに感じております。謹んでお喜び申し上げます。

清水理窓会は2013年4月現在、総勢271名になり、社内でも一大勢力になってきています。現業、設計をはじめ各種技術、情報、エンジニアリング等、ライン・スタッフの多方面でOBが活躍していますが、そろそろ入社1期生の大先輩の方々が、規定の会社人生に一区切りされ、次のステップにつかわれている状況です。現在、各セクションのリーダーが数多くいらっしゃり、何か困った際に、相互に相談できるネットワークが形成されています。理科大のOBは皆「役に立つ」との会社からの評判が高く、新入社員も即戦力としての期待が大きいといえます。

今年は4月19日に11名の新入社員を迎えて、第3回清水理窓会総会を開催しました。総勢約70名の参加があり、OBと新入社員の交流、OB同士の再会に話が弾みました。

会長のあいさつに始まり、各セクションの近況報告、新入社員の紹介と寸芸の披露等々、大きな笑い声が絶えない、楽しいひと時となりました。



清水理窓会総会集合写真 (H25年4月19日)



H25年度新入社員の紹介

総会が「第3回」というのは少なすぎるとお思いの方もいらっしゃると思いますが、実はOB会としての活動は数年前まで部門・部署ごとや、年代別に分散していました。もともとは現業関連のセクションのまとまりが良く、リクルートや定期的なOB会が開かれていましたが、会社全体の広がりまでには至っておりませんでした。それをまとめる活動が動き出したのが2005年頃のことです。

それまで、バブル崩壊後の建設業の低迷の影響を受け、リクルート活動も指定校制度などで低調でしたが、2005年頃から積極的な求人が当社からも配信するようになりました。丁度、工学部では先生方の世代交代の時期とも重なり、各セクション(*1)で独自に動いていたリクルーターのメンバーが、先生方との新たなネットワークの共用や連携する動きが始まりました。また、工学部と理工学部のそれぞれのリクルーターの動きもお互いに知っておく必要があるとの認識から相互に連絡を密にとるようになりました。その活動が基になって、徐々に各セクションで活動していたOB会を統合する話が誰ともなく話題になり、2007年に平成入社の現業セクションが主体になった拡大理窓会が開催、その後2011年に待望の「清水理窓会 第1回総会」を開催できる運びとなりました。

会長は横浜支店長、広島支店長を歴任され、現在、ミルックス(株)社長をされていらっしゃる工学部9期卒の松井啓治さんでした。また、会の発起人である理工学部2期の福原清二さん、小林光義さんにも多大なるご助力をいただき、また、工学部、理工学部の多くの有志メンバーが会発足の原動力となりました。

それからは年1回の総会や新入社員歓迎会などを定期的に開催するとともに、リクルート活動では「OB・OGと学生の交流会」(築理会主催)、各学部の「企業セミナー」(大学生支援課主催)、シミズ・オープンセミナー(清水建設主催)への参画、OB訪問などで学生後輩との交流・情報交換を積極的に進めてきております。ようやく新しい体制での活動も軌道に乗ってきたところですが、工学部が葛飾キャンパスに引越され、弊社本社も昨年より京橋の古巣に戻り新しい社屋で業務を始めて、共にステップアップしてきたように、清水理窓会の活動も進取の気概で年々、益々盛況になり、新しいステージが築けるように望んでおります。また、母校の発展、学生の為の情報提供、進路の開拓などを目的に、工学部、理工学部の各先生方との交流や連携を益々深めていけますように、清水理窓会としても努力してまいります。

最後に直近で清水建設が関わった薬学部(野田キャンパス)16号館新築工事の概略を紹介します。設計・施工とも理科大OBが関わっています。施工:高橋進(理工5期)及び森田邦生(工30期)、建築設計:関口彰(工16期)、構造設計:日向野登(理工16期)、建築工事監理:小林光義(理工2期)、電気工事監理:縄田龍一(理工電気17期)そして、総合的なアドバイザーの役割を設計副本部長の加藤忠司(工10期)が担い、合計7名が担当しました。母校への恩返しが少ないながらもできたことを光栄に存じております。

*1: 建築現業(建築部)、設備現業(設備部)、設計部(建築意匠、構造、機械設備、電気設備)、エンジニアリング事業部、技術部、情報システム部、技術研究所、その他



建築概要

名称: 東京理科大学野田校舎 16号館 (薬学部)
 (医療薬学教育センター機能)

竣工: 2009年7月31日 (工期 2008.11 ~ 2009.7)
 (設計 2007.10 ~ 2008.10)

規模: 地上3階建 延床面積: 3,539.74 m²

構造: RCSS 構法

(RC柱+鉄骨梁 複合構造 清水建設特許構法)

特徴: 既存のRC打放の建物群との調和を図りながら、大スパンに対応できる構工法の採用

活躍する卒業生

地域林業にも貢献し公共建築賞を受賞

活躍する卒業生を紹介するこのコーナー。今回は、公共建築賞を受賞した「三重県立熊野古道センター」の設計をはじめ、数々の建築・デザイン賞を受賞され、美術館・博物館から保育園、住宅、店舗インテリアまで幅広く活躍されるアーキヴィジョン広谷スタジオ代表の広谷純弘氏（工学部1部15期）にインタビューした。

第13回公共建築賞（文化施設部門）を受賞した「三重県立熊野古道センター」は、熊野古道「伊勢路」（紀伊山地の霊場と参詣道）の世界遺産登録を記念して、古道を訪れる人々に熊野古道や古道周辺地域の情報を提供し、地域の人々との交流、地域の振興を目的に、2007年に完成した施設。建物には6500本の尾鷲ヒノキが使われ、世界初の等断面集積木材構造で構築される。すべての構造材は、135mm角の尾鷲ヒノキの無垢材を使用。6500本すべてに、ヤング率、切り出された山、荒引製材業者、乾燥所、検査者等、木材に関わる全ての情報を明確にし、徹底した「トレーサビリティ」を確立した。

この公共建築賞（文化施設部門）は、十和田市現代美術館や横須賀美術館といった名立たる建築施設の中から選定されたもの。広谷氏は受賞について、「建築が自立した価値ではなく、木材流通や林業、環境問題といった社会的な問題や経済的な問題のリングの中にこの建物が組み込まれていることが評価されたのだと思う」と語る。

135mm角というのは、60～80年生の尾鷲ヒノキによる一般流通規格材にあたり、この年数が、森林経営上有効な数値でもある。

「熊野古道を歩けば、その山から切り出された木で建物がつくられ、新たに植林がされていく。小さいけれども循環したサイクルの中に建物が組み入れられているのを感じる」と広谷氏。

公共建築賞は、竣工後3年以上経過したものを対象としており、評価の基準として、設計施工が優れているということのみでなく、地域社会への貢献や施設の管理、保全といった

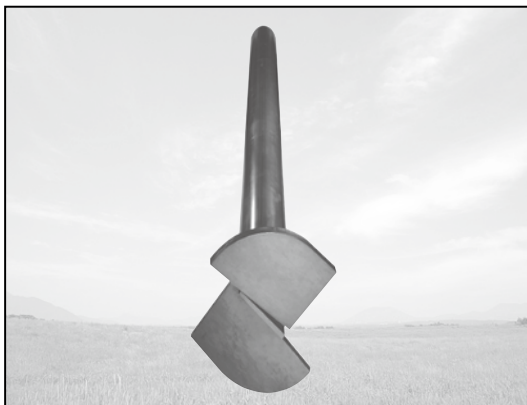
視点からも、評価を行うこととしている。審査員講評でも、「我国の林業、林産材の危機的な状況に、この事業から未来を可視化したいという使命感がある」と評され、建築が一施設としてだけでなく、その社会背景も含めて地域に根付いた存在となったことがわかる。

竣工してから6年経つが、今でも年間数回は必ず熊野古道センターを訪れるという広谷氏。「管理をしてきている方々がメンテナンス含め、非常に大事に扱ってくれている。彼らによると、この建物を訪れるほとんどの人は、建築に感動して賞賛の声をかけてくれるし、木に親しみを持って質問をしてきたりするらしい。交流ロビーも音響が良く、パイオリンのコンサートがあったり、お琴とシタールとマリンバのコンサートがあったりと、様々な使い方がされている。空間に感動し、その材料に興味をもち、生きた利用をする。それが建築の持つ力だと思うし、とてもうれしいことだ」と顔をほころばせる。

広谷氏は、東京理科大学建築設計連合体として神楽坂キャンパス新5号館の設計を手掛けたほか、2001年に完成した「富山市福沢地区コミュニティセンター」では、日本建築学会・北陸建築文化賞、グッドデザイン賞、JCDデザイン賞を受賞。近年では、3つの保育園でグッドデザイン賞、キッズデザイン賞、JCD賞を3年連続で重賞するなど、華々しく活躍されている。現在、I部、II部でそれぞれ非常勤講師も務めており、「建築のおもしろさというのは、建築だけの価値ではなく、ほかのものと結びついて、つながって、より建築が高まっていくところ。これからの建築を追求していく学生も建築自体



三重県立熊野古道センター



目に見えない支える技術こそが大切だと考える。

回転貫入鋼管杭ジー・エクス・パイル
G-ECS PILE®

<http://www.sansei-inc.co.jp>

営業品目：建築工事における基礎杭の開発・販売・施工/建築工事における各種杭の技術提案

※ 技術開発スタッフ募集中

株式会社 三誠
SANSEI INC.

本社 東京都中央区日本橋箱崎町4番3号 国際箱崎ビル3階 TEL:03-3639-5226 FAX:03-3639-8162
西日本支店：関西営業所/中部営業所/九州営業所 北関東支店：北関東営業所/茨城営業所
新潟営業所/東北営業所/沖縄営業所
(昭和48年 工学部建築学科 代表取締役 三輪富成・専務取締役 小川ひろし 他2名)



はもちろん一生懸命学んでい
かないといけないが、広い価
値観や広い視野を持つことに
力を入れていくことが大切だ
と力強く語ってくれた。

広谷純弘氏：アーキヴィジョン広谷スタジオ
代表。1980年に卒業後、株式会社建築研
究所アーキヴィジョンに入社。2006年にアーキ
ヴィジョン広谷スタジオを設立。

活躍する卒業生

多種多様なガラスを通して建築にかかわる

今回は、13期武井研究室卒業生の勇木健さんに
伺いました。勇木さんは現在、岡山県井原市に本
社及び同工場を置く中島硝子工業（株）の代表取
締役として広くご活躍されております。ガラスは
建築にとって極めて重要な材料のひとつであり、
建築を学んだ人が扱うことに何ら違和感はないと
思われます。今回は、多様な特殊ガラスを加工・
製造されている勇木さんに、そのガラスの奥の深
さを縷縷語っていただきたいと思ひます。

築理会の皆様、勇木です。築理会の皆様が、多くの分野で
ご活躍されている話に触れるたび大変嬉しく、また心強く
思っております。そのような中、地方に軸足を置き、建築材
料の一メーカーの私が？と戸惑い、ご辞退を申し上げたので
すが、弊社は特殊なガラスも取り扱っており、そんなご紹介
をすることによって、建築に携わっている多くの方に少しで
もお役に立てるならと思ひお引き受けいたしました。

私は、高校までを広島県の尾道市でのんびりと過ごし、将
来何をすべきかわからぬまま大学への進学を迎え、東京理科
大学工学部建築学科が入学を許してくれた流れで建築を学ぶ

ことになりました。入学はしたものの何を勉強するのかも、
将来何をしようということも判断をしないため、入学すると
すぐ、建築の研究室に図々しく入って行って、先生方や先輩
の皆さんに「厚顔無恥」と言われながら、色々教えていただ
いていました。先輩方がコンペやるから援軍集めるとか、そ
の他いろいろの活動に参加させていただいた関係で、先輩方
には学生時代とでもお世話になり、のんびり屋の私ですが留
年することなく4年間でこの理大を卒業することが出来ました
。卒業後は当初、大和ハウス工業に就職いたしましたが、
その後結婚し、縁あって妻の実家の家業を引き継ぎ現在に
至っています。

現在、当社は板ガラスの2次加工メーカーと言われていま
す。主な加工内容は、強化ガラス、複層ガラス、合わせガラス、
防弾ガラス、建材一体型ソーラーガラスなどです。種々のガ
ラスを市場に出している一方、素板ガラスメーカーのOEM
をしていたり、産業用の加工ガラスを多くの工場に納めてい
たりで、活動は多方面に及ぶもののイメージは「黒子企業」
であり、世の中には、あまり知られていません。岡山県井原
市に本社工場を、また、千葉県香取郡東庄町に関東工場を構
え、西日本と東日本への供給体制を整えています。許認可は、
ISO9001、ISO14001、JIS規格表示認定、自動車関連の米国、
欧州、中国認証等々を取得しています。製品の用途としては、
住宅、ビル用のガラス、建築関連ガラス（例えばエレベーター
周り、エスカレーターなど）、自動車（特殊車両、建機用など）、
電機関連（TVフィルター、CCショーケースなど）と様々です。
荒井会報委員から、ガラスという材料の奥深い話を披露して
くれといわれましたので、その辺りを以下でお話し致します。

その前に、先ほども述べましたが学生時代にも先輩の皆様
には、大変お世話になったのですが、社会人になってからも
幾多の場面でお世話になっております。現在の仕事において
も、製品開発やプロジェクトの進行中は存じ上げなかったの
ですが、後々理大の先輩方にお世話になっていたことを教え
て頂き恐縮していることが多くあります。

「東京拘置所の特殊ガラス」では、その仕様開発段階から参
画し、納入まで至りましたが、後に実はこのプロジェクトの
「特殊ガラス」を提言されたのが、石神先輩であることを教
えて頂いた次第です。また、昨年完了した都内の清水建設本
社の外壁面に使用されております建材一体型ソーラーガラス

平成24年度 1級建築士 設計製図試験

関東1都3県
合格者占有率
No.1

10年連続で関東1都3県の
合格者の半数以上は、
当学院の現役受講生でした。

V10
達成!!

当学院
現役
受講生
58.9%

関東1都3県合格者 1,933名中
当学院現役受講生 1,138名

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、
無料の役務提供生、過去受講生は一切含まれておりません。
※全国専門学校連合会（公財）建築技術教育普及センター発表による。
©平成24年12月20日現在。

東京理科大学

平成24年度 1級建築士合格者

卒業合格者
133名中、79名が
当学院の講座を利用して
合格されました!

当学院利用率
59.4%

総合資格学院

■ 開講講座

建築士 施工管理技士 宅建

無料体験入学 実施中!

お問合せは
こちらから!!

03-3340-2812

インテリア
コーディネーター

www.shikaku.co.jp 総合資格

もまた、電機メーカーの下で製造致したのは当社なのですが、その「建材一体型ソーラーガラス」を含むプロジェクトの指揮をされていたのが、武井研の望月先輩であることを、昨年の武井研の同窓会で教えて頂いたといった具合です。

さて、合わせガラス、複層ガラス、強化ガラスというと、市場に出回っているものは一般的なもののみです。しかしながら当社は、お客様のニーズにお応えし、色々なガラスなどを組み合わせ設計加工技術等により製造することが出来ます。

一例を挙げますと、合わせガラスの複合バージョンに「防弾ガラス」があります。ポリカーボネート樹脂などとガラスの複合体を作ることにより、弾丸が貫通しないガラスパネルが作れますが、要求される防弾レベルに合わせ構成設計を行い、実証実験をして対応しております。合わせガラスの中に、金属コーティング膜付きのPETなどを仕込んだりして、発熱設計をして曇らない合わせガラスにすることも出来ます。また、芸術家の依頼を受け、立体をスキャンして平面多重処理をして新たなオブジェを作り、それを合わせガラスの中に封じ込め新たな芸術作品を作ったり、劣化しやすい芸術フォログラムの劣化を止めるため、合わせガラスの中に封じこめたりと兎に角幅広い分野で多様な要求に応じています。建材一体型ソーラーガラスは、非常に割れやすいセルを板ガラスの中に封じ込めかつ割れることなく加工できることにポイントがあります。ここは、製造特許で押さえてありますので、先に述べた例の建材一体型ソーラーガラスでは、当社は相当、先輩のお世話になったことと思います。また、光や熱の透過をコントロールしたりと実に多種多様な合わせガラスを設計、製作することが可能です。

次に、複層ガラスにおいても色々な設計が出来ます。光の透過、反射のコントロールや熱の貫流のコントロールのため、中間ガス層の多層化、各種 Low-E 層の使用、ガス層のガス種類変更等々多岐にわたる方法で対応が可能です。2050 年対応の熱貫流の複層ガラスの製造も実は可能です。

さらに強化ガラスについてお話しますと、強度の入れ方で実は多くの対応が出来ます。また、強化処理前の段階で酸化チタンコートを行い、強化焼付けを行うことにより光触媒効果のあるガラスを製造しています。来年夏には、東庄工場にそのラインの設置を完了します。こちらは、現在、東京理科

大学学長であられます藤嶋昭先生の発明のおかげです。この光触媒の焼付け技術で特許を取得しており、素板メーカーは諸問題から建築用のこの分野から撤退したため、来年夏から活動を積極化する予定です。以上、色々なガラスの例を挙げましたが、これらはほんの一例であり、極めて多様な要求に応じ設計・製作することが出来ます。

ここまで述べました幅広い板ガラスの応用編、実は、全て理大の授業と当時購入していた建築関係の書籍のおかげともいえます。大学時代は、試験になると一夜漬けで、試験を乗り越えることだけで「こんなもんでいいのかな。」と思っておりましたが、今を思えば、「一夜漬けでこれだけ助かったのだから、もっと勉強しておくのだった。」と思っています。人生の途中から建築の本筋からは少し離れた、と自身では思っていますが、ガラスも建築の材料であり、理大で享受した知識、お世話になった武井先生をはじめとする先生方、先輩方のおかげで何とか進んでいくことが出来ました。今後共、理科大の先生、先輩の皆様ご指導の程よろしくお願い申し上げる次第です。

また、ここでお話しましたように、理大での授業は素晴らしかったです。後で私の様に後悔しないよう、在学中の皆様は、今以上にしっかり勉強してもらえればと思います。その後の人生で、きっと役に立つこと間違いありません。さらには、素晴らしい先輩がいっぱいいます。同期のつながりも大切ですが、先輩方とのつながりも大切にしてください。理科大建築学科卒業生の輪、繋がりが更に広がることを切に願っています。

【編集委員後記】

勇木様には、ガラスについて奥深い話をと簡単に依頼致しましたが、お話を伺ってその想像を超えた幅広さと深さに驚きました。ここにご披露して頂きましたのはほんの一例とのことですから。会員の皆様も日頃のお仕事でガラスを取り扱う機会が多いとは思いますが、本文においてご不明な点やお仕事でガラスについて悩んだときには是非勇木様にお尋ねされると一気に解消されることもあろうかと思えます。

勇木様にはお忙しい中お付き合い頂きまして有難うございました。建築分野のみに限らず広い分野での益々のご活躍、ご発展を願う次第です。



高感度な都市空間に融合する寺岡オートドア。

都市空間が機能的に細分化されるに伴い、建築空間が人々に与える心理的な影響が重要視されるようになってきました。

寺岡オートドアは、セーフティ、アメニティ、バリアフリー、セキュリティ&プロテクションという4つのコンセプトを基に、空間と人間の理想的な調和を目指します。

寺岡オートドア株式会社 50th anniversary **寺岡自動ドア**

◎自動ドアに関するあらゆるご相談にお応えします。
 ・札幌 ☎011(231)4568 ・仙台 ☎022(782)2411 ・水戸 ☎029(251)8611 ・東京 ☎03(3493)3521 ・東京 ☎03(5718)5111
 ・甲府 ☎055(241)8221 ・新潟 ☎025(268)3221 ・松本 ☎0263(58)0777 ・名古屋 ☎052(911)2361 ・金沢 ☎076(265)5418
 ・大阪 ☎06(6372)6066 ・広島 ☎082(873)3131 ・高松 ☎087(862)3828 ・福岡 ☎092(626)8877 ・長崎 ☎095(813)3821
 ・鹿児島 ☎099(210)1382 ・那覇 ☎098(886)0946
 ほか全80拠点

金町移転後初の OBOG 交流会を開催

葛飾キャンパスで初となる築理会 OB・OG と現役学生との交流会が開催された（会の開催自体は5回目）。幅広い分野の最前線で活躍する OB・OG たち 14 人が、建築実務の最前線を学生たちに伝えた。

11月10日、工学部建築学科が金町に移転してから初めてとなる OB・OG と学生との交流会が開催された。14 人の建築学科 OB・OG が集い、近く就職活動を始める修士 1 年生、学部 3 年生を中心とした現役学生たちに建築業界の各職場のリアルな仕事内容を伝えるとともに、活発な質疑を行った。交流会の司会は会報委員会の安達（1986 年卒）が担当した。

交流会に先立ち、東京理科大学工学部建築学科作品集「りぼん」の完成を同制作委員会代表の下野恵里子さんが報告した。8 号目となる「りぼん」は、さらにコンテンツが充実し、第一部、第二部を含めた学科全体の記録へと進化していることを OBOG たちに伝えた。

交流会の前半では建設会社、設計事務所、ハウスメーカー、公務員といった様々な分野で活躍する OBOG たちが、それぞれの分野ごとの仕事の特徴と、これまでの自分のキャリア歴とそのキャリアを選択した理由などについて話した。

後半は学生との質疑応答だ。今回の交流会には 2000 年以降に大学を卒業して活躍している OG3 人が参加。身近な先輩としての立場から、現役学生にアドバイスを送った。また、キャリアチェンジを経験した OB に対して設計事務所からハウスメーカーへと転身した理由を教えてほしいなどの質問が出たほか、「国家公務員に必要なスキルは？」などの具体的な問い掛けもあり、質疑応答は熱を帯びた。

最後はこれから大きく変化する社会に対応するために必要な心構えやスキルについて、OBOG から現役学生へのアドバイス。「大切なのはコミュニケーション力。いくらよいアイデ



葛飾キャンパスで開かれた初めての理大祭に合わせて OBOG と学生との交流会が行われた



「りぼん」第 8 号の完成を報告する制作委員会の面々



後半は学生たちの質問に答える形で進行。ワーキングマザーである戸梶さんは女性の働き方について語る

アでもそれが理解されない」と採用されないのだから」「問題意識を持って、聞くこと、調べるのが大事」「ビジョンをもって、明るく元気にやっていけばなんとかなる」など、若手の OBOG からは、生き生きとしたアドバイスが現役学生達に託された。



交流会の後は場所を移して懇親会。乾杯！今年の交流会に参加してくれた OB・OG たちは以下の方々（敬称略）。大岩昭之、福田義克、林孝夫、渡辺一男、安達功、高橋治、金林義隆、戸梶（常盤）純代、梅本晋、津島健二、杉本由美子、濱本理沙、筆野望、野原聡哲

交流会は当初の予定時間を超えて盛り上がり、そのままアルコールを片手にしながらの懇親会へ。乾杯の後は思い思いにこれからの日本の建築の将来についての話が弾んだ。各分野に張り巡らされた幅広い OBOG の存在、先輩後輩の関係が、現役生そして同窓にとっての価値につながることを望みたい。（安達功＝I 部 1986 年卒、会報委員会）

第 8 回ホームカミングデー

活躍する築理会メンバー

10月27日（日）心配していた台風 27 号も去り、好天に恵まれて第 8 回ホームカミングデーが葛飾キャンパスで行われた。今までの野田、神楽坂キャンパスに変わり今年度は新しい葛飾キャンパスでの開催である。ところで、ホームカミングデーに来られたことがない卒業生、築理会会員も大勢おられると思う。それで少し説明すると、学生時代を思い出すと理大祭が行われていたのはご存知だろう、これは学生が主催するものであった。しかし、ホームカミングデーは卒業生（理窓会）と大学が共催する一大イベント、お祭りである。250 名を超える卒業生（ボランティア）・教職員が 7 ヶ月かけて準備したものだ。

催しものの一例をあげれば、藤嶋昭学長、秋山仁先生などの講演会、それに今年は 600 名も収容できる大ホールを使っての人気歌手、尾崎亜美主演のライブショー、屋外



抽選会の模様

でのふれあいライブステージでは和太鼓サークルの演奏、理大混声合唱団 OB 会、それに地元葛飾区からの参加、祥子さんのライブなど盛りだくさんのステージが行われた。その他の企画、鳥人コンテスト実機展示などたくさんあったが、これらは、皆さんが思っている理大祭などとはかなり違う、設営などはすべてプロの業者が入っているの、本格的なものである。例えばアートギャラリーにしても一日だけの開催であるが、パネル、照明など設備は一般のギャラリー並みである。ちなみに設営費も街のギャラリーを一週間借りる費用を

はるかに超えている。ホームカミングデー全体の費用は、おそらく皆様が思っている以上の経費をかけている催しである。



ふれあいライブステージ

ところで、ホームカミングデーには築理会も大いにかかわっている。告知等でご存知かもしれないが、このところのホームカミングデー企画実行部会長は5期の石神一郎氏であり、この企画の財務担当は3期の福田義克氏である。また楽しみの一つ、お楽しみ抽選会の責任者は築理会現会長の林孝夫氏(4期)であり、このコーナーは築理会メンバーがお手伝いしていた。

今年度は1万人を超える入場者があったと聞いている。地元葛飾区、地域の皆様の参加も多かったようであるが卒業生も大勢訪れた。来年度はどちらで(神楽坂、葛飾)開催されるかわからないが、もし、まだ来られたことがなければ、一度見に来られることをお勧めする。ホームカミングデーは大学と卒業生を繋ぐもの。理科大の新しい理事長中根滋氏は“世界を目指す理科大を”と言っておられる。理科大も昔と大いに変わりつつある。ホームカミングデーに来られて実感していただきたい。(大岩 昭之=1部 1968年卒)

今年度は1万人を超える入場者があったと聞いている。地元葛飾区、地域の皆様の参加も多かったようであるが卒業生も大勢訪れた。来年度はどちらで(神楽坂、葛飾)開催されるかわからないが、もし、まだ来られたことがなければ、一度見に来られることをお勧めする。ホームカミングデーは大学と卒業生を繋ぐもの。理科大の新しい理事長中根滋氏は“世界を目指す理科大を”と言っておられる。理科大も昔と大いに変わりつつある。ホームカミングデーに来られて実感していただきたい。(大岩 昭之=1部 1968年卒)

築理会名簿発行について

築理会名簿発行委員

平成26年版 築理会名簿を来春発行する予定です。つきましては下記の事項についてご協力お願いいたします。

・名簿記載の個人情報提供のお願い

前回発行分(平成23年版)に変更のある方、不明とされている会員の情報をお持ちの方は2014年4月発行予定の築理会報2014春号掲載の築理会名簿データベース確認用紙にてFAXして頂くか下記送付先まで電子メールにてお知らせ下さい。

送付先: info@chikurikai.org

・名簿記載のプライバシーポリシーについて

名簿の使用は築理会会員相互の親睦のために限定しており、名簿の作成に当たっても個人情報の取り扱いに慎重を期すとともに、使用する個人情報に関する項目ごとに意思確認を行い同意を頂いた項目を名簿に記載します。名簿に掲載を望まない項目のある方は該当項目を掲載しません。

なお、築理会報2014春号を名簿掲載予定者に送付する予定です。個人情報の全部もしくは一部について名簿記載を望まない方は会報掲載の用紙に必要な事項を記載の上ご連絡願います。

詳しくは築理会報2014春号掲載の「築理会名簿データベース確認」をご覧ください。

平成25年会費納入のお願い

現在、平成25年度の会費の納入をお願いしております。同封の振込用紙にて、お振り込み下さい。

今後のさらなる築理会発展のため、多くの方のご協力をお願いします。

年会費 3,500円

加入者名 築理会

口座番号 郵便局 00110-5-171952

平成26年築理会新年会(第6回)のご案内

築理会 役員一同

昨年に引き続き同窓の皆様が気楽に交流できる場として第5回新年会を開催します。同窓の皆様には何卒お誘い合わせの上ご出席賜りたく、ここにご案内申し上げます。

日時 平成26年1月22日(水)

18時30分～20時30分

場所 東京理科大学理窓会倶楽部6階 PORTA 神楽坂

交通 JR 飯田橋駅西口から5分

地下鉄東西線、有楽町、南北線、大江戸線

飯田橋駅B3出口(神楽坂商店街通りに面す)から2分

東京都新宿区神楽坂2-6-1

電話 03-3269-1570

参加費 3000円

◎ご出席の方は顧問 石神一郎 宛て1月8日(水)までに「氏名、卒業年次」をメールまたはFAXでお知らせください。

メールによる申込み godhopping@yahoo.co.jp

FAXによる申込み 03-3400-1164

「編集後記」

一大行事である工学部建築学科の50周年記念事業が盛況のうちに開催され、築理会も次の半世紀に向けた新たな一歩を踏み出すことになりました。準備のための会議開催だけで9回、準備に携わっていただいた皆様のご苦勞にあらためて御礼を申し上げます。建築学科は新校舎研究棟の7階に入っています。皆様もぜひ足をお運びください。(安達功= adachi@nikkeibp.co.jp)

築理会報 2013 秋号

2013年11月発行 Vol.52

発行所 : 東京都葛飾区新宿 6-3-1

東京理科大学工学部一・二部建築学科

築理会事務局 会員問合せ chikurikai@gmail.com

FAX 03-5876-1614

編集長 : 安達 功

編集委員 : 石神一郎、大岩昭之、野田正治、藤森正純、荒井真

一郎、広谷純弘、増村清人、森清、伊藤学、高橋潤

子、松浦隆幸、山名善之、平賀一浩、栢木まどか、

深野有紀、大槻尚美、野村奈菜子

印刷発送 : 中桜印刷株式会社